

UDLM

10

気づけば今年も残り2ヶ月。

9月末に開催された研究室旅行からもあっという間に1ヶ月。

忙しくも振り返ってみれば充実していたと胸を張って言える
そんな時間を過ごしたい。

光阴似箭・光陰矢の如し・

- p.2-7 四年来第一次實驗室旅遊
— Lab trip 2023
- p.7 新會員介紹
— Our new member !

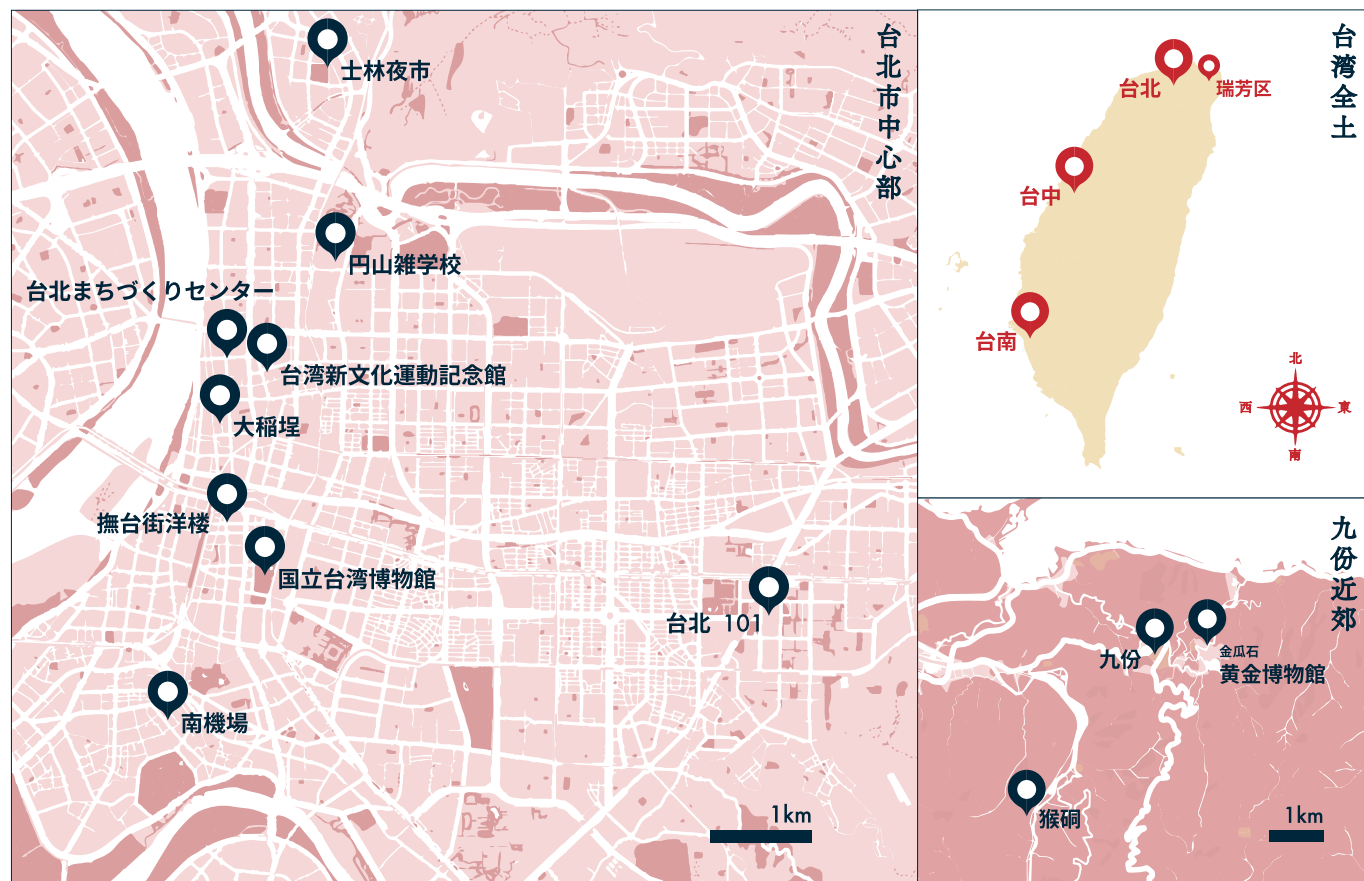
△茹だるような暑さの中歩いた大稻埕

四年来第一次實驗室旅遊 Lab trip 2023

新型コロナウイルスの影響により、実に4年ぶりの開催となった研究室旅行。今年度の行き先は台湾。参加メンバーにとっては、普段の旅行とはまたひと味違う、貴重な経験になったのではと思う。まずは全員で無事に帰ってくる

ことができてひと安心。帰ってきたばかりの今のうちに、思い出を記録に残そう！ということで今月号は、慣れないながらもなんとか研究室旅行の幹事を全うした M1 元吉・M2 長谷川による、研究室旅行振り返り号である。

台湾地圖



台北の歴史

台北は広さ 271.8km²、人口約 265 万人の台湾の首府である。1894 年に台南から首府が移動し、以来台湾の中心地として経済や文化を担っている。首府が移ってすぐの 1895 年からは 50 年間、日清戦争に勝利した日本により統治され、その時代に今に続く発展の礎となる交通や金融などの主要インフラが形成された。故に、もともとあった古い街並み・日本統治時代の都市計画・更に最近の開発という三層構造が基盤となっている都市であり、その構造を掴むのが台北を見る上での重要なポイントとなる。

1624 - 1661 年 オランダ時代

1662 - 1683 年 鄭氏政権時代

1684 - 1895 年 清国時代

1895 - 1945 年 日本時代

1945 - 年 中華民国時代

度重なる統治者の入れ替えと、それに伴う外来人口の流入が特徴である。

前準備

- 5 月初旬 研究室旅行の実施が決定。1998 年から始まり 13 回目の開催となった。
- 6 月中旬 行き先が台湾に決まる。研究室 OB の王先生に連絡。
- 9 月初旬 研究室博士 3 年の三文字さんによる、台湾レクチャーを受ける。
- 9 月下旬 プレ研究室旅行会議、開催。各々担当の地域を調べて発表し合う。



王先生

2014 年、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了。博物館学や都市保全に関連する都市計画を専門としており、現在は国立雲林科技大学の文化資産與城鄉發展研究室にて、准教授を勤めている。今回の研究室旅行のコーディネーターと現地での案内をしていただいた。

第一天

いよいよ待ちに待った研究室旅行のスタート！
とにかく暑かった初日。到着早々、南国台湾の洗礼を受ける。



台北駅

円山雑學校

圓山雜學校 Zhongshan ZA Share school

『教育就是生活，學校即社會』（「教育は人生であり、学校は社会である」）という理念を元に作られた教育起業家プラットフォームであり、社会における様々なイノベーションの推進や生涯教育に取り組む施設。施設内には、一面鏡張の部屋やくつろげるスペース、吹き抜け空間などの多様な空間が設けられており、ここで過ごせば何か新しいアイデアが湧いて出てきそうな予感があった。



雑學校に携わる林先生と、雑學校の校長先生に登壇していただき、お話を伺った。

実はこの建物、使われなくなったサッカースタジアムをリノベーションして作られている。元々コートと客席だった場所はシェアガーデンへと変容し、スタジアムが植物に覆われるという見たこともない光景が広がっていた。



夕陽に照らされるシェアガーデン

林崇傑
先生



2007年、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了。建築家・都市計画設計専門家。開発メカニズム・条例・実践を重視し、台北市当局による都市計画・都市環境保存・地域活性化に大きな貢献を果たしている。

海霸王餐厅

王先生お勧めレストラン

現地の先生方と懇親会

王先生・林先生に加え、これまでの研究室旅行でもお世話になったことのある丘先生をお招きして懇親会を開催。思い出話や研究室での取り組みの話に花を咲かせ、楽しい食事会となった。



懇親会後の集合写真

丘如華
先生



オーストリア・ウィーンで音楽を学び、1980年代から史跡保存と活用に取り組んでいる。1986年に「樂山文教基金会」を設立し、1987年から迪化街の史跡保存運動に取り組む。2004年には「台湾歴史資源經理学会」を設立。

台湾らしさの構成要素

「台湾っぽいな～」と感じる景色を構成する物をふたつ、ピックアップしてご紹介



亭仔脚

軒下一階部分が歩道になったアーケード空間。風雨を防ぐだけでなく、暑さ対策にも。日本統治時代に取り入れられた様式だそう。

プランター

台北のまちなかには至る所にプランターが。地面に置きだけでなくベランダに設けている家も多く、道に緑が添えられていた。



士林夜市

士林夜市 Shilin Market

懇親会の後は、お待ちかねの夜市へ。この日は台北市最大規模を誇る士林夜市を訪れた。食べ物以外にゲームも充実している台湾の夜市。この日、M1の山田さんは風船を割るゲームでぬいぐるみをゲット！



おめでとう！

研究室月見会開催！

一方その頃本郷の研究室では、旅行に参加していない研究室メンバーによる、中秋の名月お月見会が開かれました。



14号館 研究室前のベランダにて

第二天

2日目は、王先生の勤める雲林科技大学の学生の方々と合流し、台北市内を案内しつくしていただいた。日本統治時代の影響が色濃く残る台湾。その歴史を辿る1日となった。

台湾博物館

日本統治時代に建てられた博物館

日本統治時代に、日本人により設計・施工された台北博物館。RCと煉瓦の混合造で、当時の台湾においては最先端だった建築。柱や天井、窓枠のデザインも凝って作られている。

中山堂

日本統治時代の公会堂

撫臺街洋樓
Futai Street Mansion

撫台街洋樓

1910年に日本人建築家の高石氏により建設された撫台街洋樓。そこでは丘先生も関わられている展示「營造・臺北」が開催されていた。110年もの間この場所に立ち、都市の変遷を見守ってきたこの歴史的建造物で都市の変遷をテーマにした展示会を開催している点にメッセージを感じた。



丘先生の娘さんに案内していただいた。

研究室旅行 in 台湾 2012

研究室旅行で台湾を訪れるのは今回が3回目。2000年・2012年の研究室旅行の行き先も台湾だった。今回案内してくれた王先生は2012年、博士3年として研究室旅行に参加しており、先生の案内で夜の台北市内を散策したという。詳しくは、マガジン vol. 176 をチェック！



当時の集合写真

大稻埕

大稻埕
Twatutia

淡水河のほとりに広がる大稻埕は、清代末期から日本統治期まで、水運により繁栄したエリアである。都市再生のための小さな文化拠点である、都市再生基地 - URS が特に多く点在している。ここではその取り組みを推進している呂先生にお話を伺った。

URS44 は迪化街の入り口に位置し規模も大きいことから大稻埕エリア全体の歴史・伝統を語る役割を担う。3階のギャラリーでは提灯を展示。台湾らしい風景が演出されていた。



URS 44



URS 127

アートがテーマの URS127。展示空間やクリエイターのインキュベーションセンター等、外観の歴史的な雰囲気とは対照的な、クリエイティブな内部機能が魅力的だった。

呂因固
先生

台北科技大学経営工学博士課程修了。建築家・都市計画家。台北市産業發展局局長 兼 URS プロジェクトキュレーター。32歳で大稻埕に降り立って以来、長期に渡り、歴史地区保存の観点から、エリアの都市再生を実践し続けている。



呂先生と記念写真。建物の奥には中庭（ここでは「天井」と呼ぶらしい）が！

台北まちづくりセンター・台湾新文化運動記念館

寧夏夜市

寧夏夜市
Ningxia Market

雲林科技大学の学生さんたちに案内してもらい、寧夏夜市へ。おすすめの食べ物も教えてもらって、みんなで挑戦！1日中一緒に回ったので、別れるときは寂しさも一入。次は私たちが東京を案内すると約束し、別れました。



イカにきゅうりを詰めた屋台飯



交差点に突如現れる寧夏夜市

M1会・M2会開催！

解散後は、それぞれの学年で集まり、親睦を深める会が行われました。



M1会

M1は7人でピーパーへ。実は7人同時に集まるのは初めてでしたが、とても盛り上がった会となりました。

屋台飯に舌鼓し、ボールゲームをプレイ。地元の高校生らしき子たちに紛れ、しばし童心に帰りました。



M2会

第三天

3日目は少し足を伸ばして西の地へ行き、鉱山で栄えた3つの地域を巡った。
昔は同じように鉱山だったまちの、それぞれの今の姿を体感。まちづくりのあり方について考えさせられる1日となった。

● 猴硐炭鉱遺跡

● 黄金博物館

黄金博物館
Gold Museum

日本統治時代、金や銅の産地として繁栄した金瓜石。鉱脈が掘りつくされた現在では、エリア全体で当時の様子を学べるエコミュージアムに。見学後は施設の職員の方々とこの場所の将来について議論。エコミュージアムとして、今後はより地域に開かれた形を目指せないか等という意見が挙がった。



まち中に散りばめられた展示



議論の様子。学生の疑問に一つ一つ丁寧に答えていただいた。

猴硐煤礦博物館
Houtong Coal Mine

かつては台湾1の石炭採掘場だったという猴硐。現在このまちは炭鉱だった時代の記録や記憶を残しつつも、土地の文脈をあまり取り入れていないブランディングによる観光地化が進みつつある。当時の様子を知る炭鉱夫の方々が自ら作ったという、思いのこもった炭鉱博物館をご案内していただいた。



実際の道具や写真を見ながら、当時に思いを馳せる。



炭鉱時代の線路を覆った広場デザインが印象的



この日の昼食は炭鉱夫のお弁当
暑い中でも傷まないよう、塩分多めに作られているそう

● 九份

九份
Jiufen

ここ九份も同じく金の採掘が行われていた地域。閉山して以降衰退の一途を辿っていたが、映画の舞台となったことをきっかけに急激に観光地化。今では台湾随一の観光地として知られる。元々鉱山に関係していた建物は、今や元用途の面影は殆ど感じられないものが多いが、建物自体は継承し新たな用途に使われているものも多い。



台湾茶を楽しめるお店がたくさん



左に見える建物はかつて金鉱工場だった建物で、今は茶屋になっている。

● 馬辣 漢口店

頂級麻辣鴛鴦火鍋店

研究室メンバーで懇親会

最終夜ということで、参加メンバー全員で火鍋を食べに。
中国からの留学生、孫さん・戴さんに作り方を教えてもらい、思い出話を花を咲かせながらみんなで鍋をつきました。



「寧仔脚」の下に並んで集合写真！

台湾と日本、どこが違うと感じた？

M2 ふたりに、インタビューしました！

建物の正面は多くの場合モルタル等で覆われているが、隣が工事中や空き地などイレギュラーでレンガ壁が見えることがあった。日本ではここまで重ねたり、パッチワーク的に使ったりすることは珍しいと思う。歴史の積み重ねが物理的かつ垂直方向で起きており、遺跡の埋め戻し保全のようで面白かった。(M2 唐木田)



台湾の建物は「彫りが深い」と感じた。日本では構造躯体の外側に壁やベランダを設けることが多いが、台湾では内側になっていることが多かった気がする。暑さが原因なのかな...？(M2 永井)

第四天

研究室旅行最終日。清朝時代街並みが残る剥皮寮歴史街区や開発が進む信義区を訪れ、旅を締め括った。台湾発祥の地から台湾の最先端の地まで、時代を横断しながら台北を体感する最終日となった。

南機場國民住宅

Nanjichang apartment

第二次世界大戦後に建設された公営住宅であり、至るところに住民による増築の跡が。かなり老朽化が進んでいるが、住民の合意形成の関係から建て替えが進んでいないのが現状である。ここでも都市工魂を発揮し、普段は入りにくい内部も見学。東京に建っていたら、廃墟かな？と思ってしまいそうな建物も台湾ではまだまだ現役で、立派に都市の暮らしを支えている。



住民の工夫が詰まったファサード

剥皮寮歴史街区

清朝時代の街並み

艋舺龍山寺

台北最古の歴史ある寺院

臺北 101

臺北 101 Taipei 101

信義区にある 101 階建てビル。信義区は、新宿副都心を参考に開発が進められた地区である。それもあってか、まちあるきをしているかのような馴染み深い感じがした。高層ビルが建ち並ぶ光景はこれまでの数日間台湾で見ていた、アーケード商店街や露店が建ち並ぶ台北駅周辺市街地とは大きく異なる。最終日も台北のまた違う一面を見た。



意匠の凝られた超高層ビル

研究室旅行としてはこれで解散。

ここからは、一部の有志で訪れた台中・台南旅行の様子をお伝えする。



宮原眼科

宮原眼科 Miyahara Ophthalmology

日本人眼科医の宮原武熊により建設され、日本統治時代には台中で最大規模の眼科診療所だった宮原眼科。戦後、老朽化し危険建築物に指定されていたが、建物の煉瓦や木材フレームなどの元の素材を鉄骨で補強し、レストランやショップが入る施設へとリノベーションされた。見学していると、一足先に台中を訪れていた青木先生に遭遇。建築の解説をしてもらい、ほくほくでした。



新旧のファサードが融合した外観

台中国家歌劇院

大型公共コンサートホール

Maple Garden

人工池を有す、半地下式の公園

SOF Hotel

植光花园酒店 SOF Hotel



ほとんど手が加えられていない外観

数十年間廃墟として放置されていたかつてのホテル建築をリノベーションし、再びホテルとして開業した SOF Hotel。ファサードや躯体はそのまま残して再利用されており、建物の随所で当時から残る建築物の名残とその荒々しさを感じることができた。



引き継いだ躯体が生かされたデザイン

台北・台中・台南 印象のちがい

臺北

首府。台湾の経済や文化の中心

建物が水平方向にも垂直方向にもとにかく建て詰まっている様子が印象的。それだけに、どこに行っても飽きない。まち全体が忙しく、首府に相応しい華やかさがあつた。



臺中

台北に次ぐ第2の都市。物流で発展

台中駅から離れたエリアで開発が進んでいる台中。駅周辺はひっそりと取り残された印象を受ける一方で、開発エリアは夜の光に包まれ、台北とは異なる夜の賑わいがあつた。



臺南

歴史的建造物が数多く残る、古都

雰囲気のがんびりしていた印象。訪れた河樂廣場にて、多くの人が何する訳でもなくただまったり過ごしている光景を見て、これは台北ではあまり見なかったなと思った。



第五天

この日は早起きをして台中から台南へと新幹線に乗って移動。
 各々の参加者が自分の行きたい場所をピックアップして回る、自由な一日になった。

四草綠色隧道

マングローブクルーズ体験

林百貨

リノベされた百貨店

南埕街事

南埕街事

Tainan Long Stories

台南の都市構造をモチーフに、藤本壮介により設計された再生建築。建物内にはいくつもの階段があり、中には機能的にも全く意味のない階段も。建築自体がアートになっていた。



河樂廣場

Tainan Spring

元々はデパートだった建物を躯体だけ残して広場として再生した事例。実はこの場所、みなかみPJの重要参考事例として長年使用していたもので、PJメンバーにとっては念願の訪問であった。再生前の様子の常設展示



武聖夜市

Wusheng Night Market



大量のバイクの横に夜市が広がる

巨大な無料駐車場の脇で開催される夜市。他の夜市よりも広々しており、フリーマーケットのように布団や洋服まで販売されていた。台湾での最後の晩餐となった。

河樂廣場

武聖夜市

これにて、後泊も含めた全ての研究室旅行が終了。
 台湾を味わい尽くし、沢山刺激をもらった4泊5日。充実した研究室旅行であった。



返回日本

新會員介紹 our new member!

東條秀祐 さん



宮城県出身。京都大学地球工学科卒業。同大学院都市社会工学専攻中退。
 「研究に加え、実際の都市での実践活動やスタジオ演習を通じて都市設計の技術と知識の獲得をしたい」と思い、遠回りして入学しました。自身がランナーということもあり、マラソンコースの沿道景観に着目した研究をしたいと思っています。」

京都市役所

Kyoto City Hall

庁舎は1931年に武田五一監修のもと設計され、左右対称で中央に塔を建てる、官庁建築の代表例と言えます。和洋中印など多様な形式の意匠が施されているのが特徴的です。京都マラソンの折り返し地点にもなっており、コース沿道の重要な景観資源と言えます。

お気に入りの近代建築



撮影者：東條さん

COLUMN

POSTSCRIPT

今号では9月末の研究室旅行を取り上げた。異国の地で研究室のメンバーと3泊4日を過ごす経験はなかなかなく、まちなみ、食べ物、会える人々、どれをとっても新鮮で面白い。そんなワクワク感が感じられる紙面になっていたら嬉しい。M2の長谷川さんと、研究室旅行の企画からマガジンでの振り返りまで完走でき、個人的にも大満足の研究室旅行となった。

10月号担当
 M1 元吉千遥



WEB MAGAZINE

ヌマガワで大冒険！



#手賀沼プロジェクト

普段より沼に近いヌマガワで様々な冒険ができる「ヌマベンチャー」を実施しました。ササで工作したり沼にハマったりするなど色々なアクティビティが見られ、沼辺の新たな可能性を感じました。(M2 佐橋)

続きはコチラ >>>

<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>



「池のほとりの本のまち」開催！



#上野プロジェクト

近隣の書店・飲食店の皆様にご協力いただき、社会実験として屋外ブックカフェを開催。池と街をつなぐことをテーマとし、交通規制の上公園から車道までを一体的にデザインした初の取り組みでした。(M2 平野)

BOOK OF THE MONTH



広場

All about "Public spaces" in Japan

隈研吾・陣内秀信
 淡交社
 2017

日本では「広場＝ひろびろとひらけた場所」は成立しえない、と言われる。しかし、ひろびろ＝人が集まれる、ひらけた＝開かれた空間と捉えると数えきれない「ひろば」が浮かんでくる。その歴史と44の事例から「日本のひろば」とは何かを問い直す一冊。(M1 水野)